



ひらいたら ひらいてみよう オープンアトリエ報告展

会期 2016.2.16 (火) — 2.21 (日)

10:00 — 18:00 ※最終日は15:00まで

会場 アートスペース上三条

奈良市上三条町4 Tel: 0742-23-0114

関連プログラム1

オープンアトリエ「印象のまなざし vol.3 空間を奏でる」

2.16 (火) 14:00 — 16:00

展覧会場で作品を自由に鑑賞することから始めます。そこから湧いてきた言葉を一人ひとり聞き合い、楽器を使ってメロディをつけます。できる曲は展覧会のテーマソング。歌って音を鳴らして全身をつかっての体験プログラムです。(定員10名、要申込)

はたらく、くらす、続していく日々のなかで、自由に参加し交流できる時間や場が地域にあつたら、毎日はもっと楽しくもっと豊かになるのではないでしょうか。「表現活動をとおして一人ひとりの違いを認め合うことができる時間」、「誰かと出会い、一緒にアートを楽しむ地域に開かれた場」。障害のある人もない人も参加した4つの〈オープンアトリエ〉の活動のプロセスとうまれてきた作品を紹介します。



会場
アクセス



入場無料

関連プログラム2

レクチャー「ろう学校での創作活動」

2.20 (土) 10:30 — 12:00

講師: 浅田香苗 (大阪府立生野聴覚支援学校美術教員)
聴覚に障害のある人にとって表現活動はどういう意味があるのでしょうか。また鑑賞活動とは? ろう学校で行われている美術の実践から、表現と鑑賞、芸術を楽しむという視点について考えます。(定員30名、要申込、手話通訳付)

主催: 一般財団法人たんぽぽの家 (※関連プログラムのお問い合わせ、お申し込みは下記連絡先までお願いします。)

〒630-8044 奈良市六条西3-25-4 Tel: 0742-43-7055 Fax: 0742-49-5501 E-mail: artsoudan@popo.or.jp http://artsoudan.tanpoponoye.org/

協力: 社会福祉法人いこま福祉会、NPO法人どろんこ畠、社会福祉法人総合施設 美吉野園、社会福祉法人わたぼうしの会

※平成27年度厚生労働省障害者の芸術活動支援モデル事業

たんぽぽの家では障害のある人の社会参加やいきがい・仕事づくりとして、アート活動の支援にとりくんでいます。2014年度に「障害とアートの相談室」を開設し、みなさんからの相談を受けるなかで多かったのが、学校卒業後のアート活動ができる場への希望です。「養護学校のときには美術の活動をしていたんだけれど、卒業後にできる場がない」、「作品を発表できる機会を教えてほしい」。今回4つの〈オープンアトリエ〉のプログラムを実施しながら、地域のなかに開かれた表現や鑑賞の場をつくることができるかを考えました。ぜひ、来場いただくみなさんとも、〈オープンアトリエ〉の可能性について一緒に考えたいと思います。

障害のある人もない人も参加した4つの〈オープンアトリエ〉の活動のプロセスとうまれてきた作品を紹介します。

① オープンアトリエ「mirumiru(ミルミル)」

いつ 土曜日の午後 2時から4時

どこで 香芝市の総合福祉センターで

障害のある高校生以上の人人が参加し、絵画を中心とした創作活動を連続4回で行いました。また、一人ひとりの可能性をのばす造形活動の支援について、アートソポーターの参加をよびかけ、共に模索しながら取り組みました。



講師：岡崎潤

デザイナー・造形教室主宰



ここなら安心して自由に表現ができる、個性を認め合える仲間がいる、そう思える場をつくるため、連続講座として関係づくりを大切にしました。活動は、参加者の主体性を重視しながら、ソポーターと共に個別の展開を検討。また、毎回お茶を飲みながら作品を発表し合う〈サロン〉を開き、交流を楽しみました。

② オープンアトリエ「わくわくポン！」

いつ 平日の午後 4時から5時半

どこで 生駒市のカフェで

障害のある人もない人も、こどもも歓迎で参加を募り、身近な素材を使った創作活動を行いました。パラシュートやポンポン人形、時には道具もつくってみたり。1回だけの参加でも楽しめる場を、町のカフェでひらきました。



講師：竹田悠佳

たんぽぽの家
アーツスクール Pocket 運営



1つ1つの作業行程を分かりやすくし、楽しさを感じられる工夫や素材を準備しました。つくる過程やコミュニケーションを大事にしたこと、手もよく動き、笑顔や会話が生まれました。各回、それぞれに表情の違った時間を感じることができました。

③ オープンアトリエ「印象のまなざし」

いつ 施設がつかえる休日や平日

どこで 奈良市の福祉施設とギャラリーで

視覚に障害のある人ない人が参加し、創作体験を通して「まなざし」(=頭のなかのイメージ)、「みえ方」「感じ方」の違いを楽しむプログラムを開催。視覚に障害のある人への創作活動の支援にも取り組みました。



講師：吉永朋希

たんぽぽの家アートセンターHANA
アートディレクター



大切にしたことは「また創作がしたい!」と思える時間にすること。そのために画材と技法を親しみやすいものにしました。日用品を使ったコラージュ、クレヨンの削り絵、扱う素材は100円ショップやデパートで買えるものです。手軽さをだすことで、純粋な創作の楽しさに熱中してもらいました。

④ オープンアトリエ「ふれあう大地のおすそわけ！」

いつ 土曜日の昼・日曜日の午後

どこで 奈良県吉野郡の畠とカフェで

障害のある人もない人も、町の人も町を訪ねた人も、季節を楽しみながら一緒に過ごす空間をつくるプログラム。ダンスをしたり、地場産の野菜や綿といった、地域から生まれた素材を用いて五感を豊かにしながら楽しみました。



企画者：岡部太郎

一般財団法人たんぽぽの家
事務局長



カフェの隣りにあるビニールハウスや野菜。地域の、今そこにあるものをいかした企画で、ダンサーの佐久間新さんを講師に迎えました。絵画・造形だけでなく、身体表現や料理、食べることも大きくは自己表現。日常の中にも輝く瞬間があることを共有できたと思います。